

※スライドの方向は左です。

ムラゲの ひみつの おみせ
え・ぶん..よしと

「線まで左へぬく」

だいたいの ビルと ビルの
あいだの ちいさな すきまに
てつがすきな びせいぶつたちが あつまる
カフェが ありました。
その カフェの なまえは タカドノ。

「ぜんぶぬく」

(聞き手の見え方)



タカドノでは とても おいしい
おくいずもの タタラてつ に こだわり
マスタームラゲが おきやくさまに
おいしい タタラを ふるまって いました。
みせは かわいい びせいぶつたちで
おおにぎわい。

「線まで左へぬく」

「いらっしやいませ。」

「すみません。あのー モグラーつ。」

「はい モグラねー!」

「つて おきやくさん!!

うち モグラは だして ないからね!!」

「あら そうなの。」

メニューに かいて あったじゃない。」

「ちがう ちがう それ モグラじゃなくて タタラ!

うちは カフェだから タタラを だしてるんです!

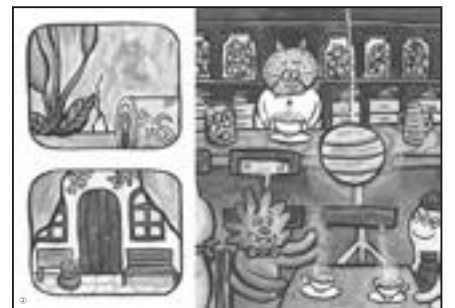
すぐく おいしいから おきやくさん どうですか?」

「あら そんなに いうのなら

いただいちゃおうかしら!」

「かしこまりました。おだいは 500ケラです。」

「ぜんぶぬく」



ムラゲは タタラの ちゅうもんが はいったので
 まずは ビンから
 しんせんな タタラの ブレンドを
 スプーンで とりだし
 それを タタラミルで
 たたらったらたら ゴーリゴリ。
 ひきだしを あけ タタラてつが
 こなに なったら
 ドリッパーという きかいの なかに
 くらい き といっしょに
 さらにさらに こなを いれて

「線まで左へぬく」

ファイヤーポットで ボ——！！
 あかぐろくなつた タタラが
 ポタポタとおちてきたら
 カップにいれて できあがり！！
 おきやくさまも まんぞくそう！
 「あゝ なんて いいかおり なんですしょう。」

「ぜんぶぬく」



つぎにきた おきやくさまは
おめめが4つある おじょうさん。



「おまたせしました。なにに しましうか？」



「そうね わたしは いつもの『タタラテ』で
おねがいするわ！」

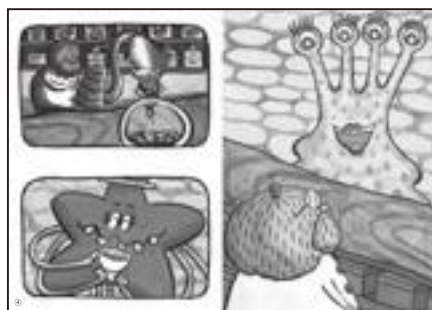
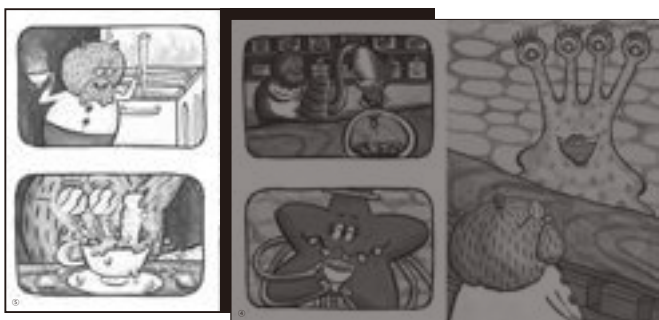


「かしこまりました。600ケラです。」

〔線まで左へぬく〕

ムラゲがよいしたのは タタラ と ツララ。
ちゅうもんがはいると ムラゲは
れいぞうこから まっしろく とがった
ミルクツララを とりだし
グツグツの タタラに
ミルクツララを ジュウゝ！

〔ぜんぶぬく〕



まろやかで のうこうな タタラテに
おきやくさまは うれしそう!!



「あゝ おいしいわ〜!」

「線まで左へぬく」

つぎに やってきたのは じょうれんの
うつくしい マダムです。



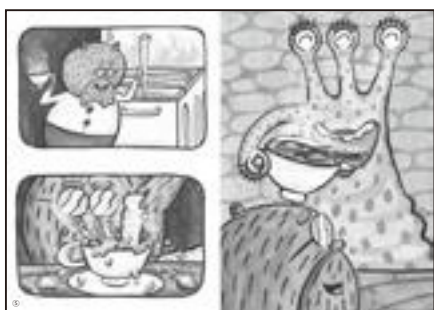
「ボンジュール、マスター。

いつもの おねがいするわ!」



「はい、『タタラーノ』で ございますね!
600ケラです。」

「ぜんぶぬく」



つぎに ムラゲが よういするのは なんと
タタラ と オナラ。
ムラゲは ちゅうもんが はいると
カウンターのしたに スツと しゃがみこみ…
プツと やって
パツと やって

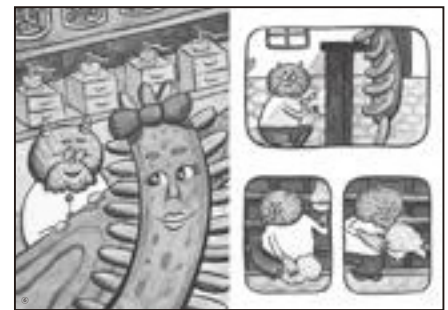
「線まで左へぬく」

ホワ〜と なったら ハイ かんせい!!
あわで しろい おひげがついた マダムも
だいまんぞく!

「なーんか クセに なっちゃうのよね このあじ!」

「でも おならを いれてるのは
ここだけの ひみつ!」

「ぜんぶぬく」



そして じかんは すぎ
ほんじつ さいごの
おきやくさまがいらっしゃいました。



「あー！ きょうも ぶじ しごとが おわった!!」
やってきたのは サラリーマンの びせいぶつ。



「この しごとおわりの ーぱいを
たのしみにしているんだよー！」

あの にがい『タタラッソ』が すきでねー！
マスター きょうも あの にがにがの タタラッソ
たのむよー！」



「かしこまりました。」

ムラゲが このひ さいごによういしたのは
タタラ と アブラ。

グツグツの タタラに
ドッロドロの アブラを
ポタリと いれると…

〔線まで左へぬく〕

ボン！！

〔へびさんぜ〕





「ゲホゲホ。おまたせしました
タタラッソでございます。」



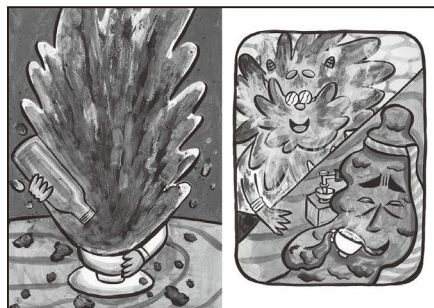
「ありがとう！ それではいただきます。
ゴクゴクゴク。んゝ ニツガアー!! たまらん！
ごちそうさま!!」

おきやくさまは まんぞくそうに
かえって いきました。



「さて あしたのじゅんび
もっひとふんばりがんばろうー!」

「ぜんぶめく」



ムラゲが おみせの そとに てたとたん
まっしろな しらさぎが

ビルの あいだをくぐりぬけて

とんできました！

くちには うつくしく ピカピカとした

タタラてつの かたまりを くわえています！



「おい こつち！ こつち！

やっぱり ふるさと おくいずもの タタラてつが
いちばん！」

「ぜんぶぬく」



日本遺産「出雲國たたら風土記」は、島根県安来市・奥出雲町・雲南市の風土を語る上で不可欠な地域の物語です。それは、1000年以上前からこの地域で続いてきた“たたら製鉄”という一大産業が、どれほど深く私たちの暮らしに関わっていたのかを伝える物語です。

今、私たちが何気なく見ている出雲地方の風景や伝統文化は、たたら製鉄と深く結びついています。たたら製鉄の歴史とともにこの地の風土が育まれ、他のどこにもない魅力をつくりだしています。

この絵本は、ここに暮らす子どもたちが、「出雲國たたら風土記」に語られるようなこの地域の風土に愛着を持って成長してほしいと願って制作しました。物語と絵は、地元で活躍している紙芝居作家／紙芝居師・よしと氏に依頼し、自由な発想でつくってもらったものです。

物語の中で「たたら」が言葉遊びとして登場することで、子どもたちがたたら製鉄のことを“なじみやすい言葉”として記憶してくれるはずです。そして、成長して本当のたたらに歴史に触れたとき、子どもたちはたたら製鉄が育んだ風土を自分たちの誇りとしてより深く理解してくれることでしょう。

鉄の道文化圏推進協議会
(島根県安来市・奥出雲町・雲南市)

紙芝居に登場するたたら言葉について

- ・ムラゲ（村下）……………たたら製鉄を司る技師長。
- ・タカドノ（高殿）……………たたら製鉄における中心的な建物。現代でいうところの製鉄所。雲南市吉田町の「菅谷高殿」は、操業当時の姿が日本で唯一残っている。
- ・タタラ（たたら製鉄）…砂鉄と木炭を土で築いた炉の中で燃焼させて鉄を得る日本古来の製鉄法。中国山地には良質な砂鉄と豊富な森林資源があったことから、地域の一大産業として発展した。現在は、仁多郡奥出雲町の「日刀保たたら」において唯一操業されている。
- ・ケラ（鍋）……………たたら製鉄によってうまれる鉄のかたまり（不純物を多く含む）。
- ・しらさぎ（白鷺）……………鉄づくりの神様“金屋子神”は白鷺に乗って、播磨国志相郡（現在の兵庫県宍粟市）から安来市広瀬町のカツラの木に飛来したと伝えられる。

ムラゲは みんなが よろこんでいる
かおを おもいながら
あしたの じゅんびを するのでした。
だいたいの ビルと ビルの あいだの
ちいさな すきま。
そこに あるのは
ムラゲの ひみつの おみせです。

—おしまい—

ムラゲのひみつのおみせ

2018年1月 初版発行

絵・文：よしと

発行：鉄の道文化圏推進協議会

印刷：株式会社谷口印刷

